

上中里・氷取沢地区 小規模校再編検討委員会ニュース

平成17年 9月30日 第3回検討委員会開催

今回は、これまでの様々な意見交換に基づき、検討委員会として上中里小と氷取沢小の統合を仮決定しました。

これを踏まえ、次回以降の検討委員会では、統合校の名称、統合校の設置場所、通学区域など統合に向けた具体的な検討を進めていきます。



平成17年 9月30日 氷取沢小において

上中里小・氷取沢小の「統合」を検討委員会として仮決定

～ 学校名、どちらの学校施設を使うかなど具体的な検討は次回委員会から ～

検討委員会では、今回までの議論を踏まえ、「両校の統合は、子どもたちにとってプラスである」という共通認識を確認し、上中里小と氷取沢小の統合について「仮決定」（総論として統合を決定）しました。

今後、統合校の名称、設置場所、通学区域など統合に向けた具体的な項目を話し合っていきます。

検討に当たっては、次の「再編統合の考え方」（案）に基づき進めていくことを事務局から説明しました。

なお、再編時期については、検討委員会での議論を踏まえて検討していくこととなりますが、事務手続や改修工事等の準備期間を考慮すると、最も早く統合できた場合でも平成19年4月となります。

上中里小学校・氷取沢小学校の再編統合の考え方（案）

項 目	内 容
1 統合に当たっての考え方 (統合校の校名)	一方の学校が残り、他方の学校が廃止されるということではなく、両校をいったん閉校し、新たな学校を誕生させるという考え方で統合を検討する。 したがって、学校の名称も白紙から検討することとし、新たな学校のあり方等については両校が対等の立場で検討することとする。
2 統合校の設置場所	通学距離や通学時間、通学安全性、施設内容などの観点から検討していくこととする。
3 再編時期	再編統合の実施時期は、検討委員会における議論を踏まえながら、今後検討することとするが、両校の状況を考慮し、できる限り効率的に検討していく。
4 新校の特色づくり	再編を契機に「上中里・氷取沢地区」にふさわしい教育の特色づくりを進める。また、教育委員会は必要な支援を行う。
5 統合校の通学区域	上中里小学校及び氷取沢小学校は、同じ道路の延長線上にあることから、基本的には、両校の通学区域を合わせた学区とするが、地域の住民の意思を十分確認しながら検討する。
6 統合校の中学校の通学区域	中学校については、浜中学校は受入上の支障はないが、富岡中学校は施設面で統合校全員の受入れは、困難であるため、地域の意向を踏まえながら弾力的に検討する。 (統合校の中学校通学区域の例) 現行通りの通学区域とする。 統合校の通学区域を浜中学校とする。 希望により、富岡中学校、浜中学校を選択できる特別調整通学区域とする。

主なご意見・ご質問 (回答は事務局)

ここで統合を決めることは、今、通学している子どものことだけでなく、長い将来を考えなくてはならないので、「しかたないからあきらめましょう」という結論ではいけないと思う。保護者の方のアンケートでは、基本的には「統合は賛成」と理解できた。なかには「行政や大人の都合で」という意見があったが、決して統合を押しつけている訳ではなく、将来の子どもたちがより良い環境の中で、育っていくことを考えなくてはいけないと思う。

それほど遠くない将来、子どもが減ることが分かっており、学校としていろいろな面で無理が生じているのでこのような統合の検討をしている。決して行政や大人の都合ではなく、社会現象で仕方ない。そのような現実を受け入れ、必然的に一緒になった方が将来の子どものためになる。

子どもたちに統合のことをあまり長く悩ませてはいけない。できれば「来年3月ぐらいまで」と結論の目安を決めた方がいいのではないかな。

統合する方向であれば、何年後に統合したいという計画はあるのか。

拙速な議論はいけません、5年も6年もという訳にはいきません。昨年着手した他地区の例から、統合の結論を出すまでに約1年、結論が出た後、統合に向けての施設改修やソフト面での準備に約1年かかっており、どんなに早くても2年はかかります。

仮に平成19年4月に開校する場合、逆算するとこの検討委員会ではいつまでに結論を出せばよいか。また工事などの関係も大丈夫か。

年度内に結論を出していただければ、平成19年4月に間に合うと思います。工事関係については、現在の学級数と保有教室数を考えれば、内部改修的なものが主となるので、1年間で十分間に合うと考えています。

上中里小・氷取沢小の教育目標・教育活動内容などを紹介

上中里小・氷取沢小両校の校長から、教育目標や教育活動内容について説明していただきました。

上中里小学校と氷取沢小学校の教育目標等

上 中 里 小	学 校 教育目標	ふれあいの場を大切に、思いやりと活力を持ちながら、 確かな学力を身につけた子どもを育てます。
	特色ある 教育活動等	・心を広げ、豊かに育む、異年齢交流・異校種間交流、地域高齢者交流 「磯子高との交流授業、浜中・磯子高とのコンサート」 ・英語サポーター・A E T (外国人の英語指導助手)による英語活動全校展開 ・習熟の程度に応じた算数の少人数指導・カリキュラムづくり ・「上中里小学校学援隊」との防犯活動 など
氷 取 沢 小	学 校 教育目標	「豊かな個性と思いやりのある子の育成」 自他共に人権尊重の精神を育みます。
	特色ある 教育活動等	音楽朝会、なかよし給食、全校バイキング、スプリングコンサート、 ワクワクサタデー(フェスティバル)、さつまいも収穫祭、むかし遊び、 その他「地域の教育力の積極的な導入」習熟度指導を目指した少人数指導

授業を行ううえでの小規模校・少人数 ~ 両校の校長からみて ~

上中里小・氷取沢小両校の校長からは、小規模校・少人数であることにより、授業を行ううえで困る点、また助かる点について紹介していただきました。

一人ひとりにかかわる時間が多くなり、子どもをより深く理解できるのが助かる点。困る点は、お互いいろいろな考え方、個性、価値観にふれあうことが少ない。

単学級は、子どものペースで授業ができ、他のクラスと比べることもないのでカリキュラムの変更が容易である。困ることは、教育指導で他のクラスとの比較検討ができないため、うまく行っている場合はいいが、うまく行かなくなったとき解決が難しい。

どういふ子どもに育ってほしいか ~ 地域・保護者などからみて ~

具体的な「統合」を決める前に、地域・保護者などからみて、「どういふ子どもに育ってほしいか」そのためには「どういふ教育環境が望ましいか」などを話し合い、次のようなご意見がありました。

小さい頃からいろいろな子どもと交わりがあれば自分の意志も堅くなると思うので、いろいろな子どもと交流し、育ってほしい。

「年齢の上の子が下の子の面倒をみる」といふような異年齢の交流を大事にし、素直に育ってほしい。中学校、高校と上がっていくなかで、多様な子どもがいることを知って育ってほしい。

最近の親は、子どもが何かすると「危ないからやめなさい」といふことが多いが、まずはやらせて経験の中から様々なことを学ばせてほしい。そして、子どもたちには伸び伸びと大きな人間になってほしい。

今の子どもは、昔の子どもとそれほど違いはない。多少軟弱になっている傾向もあるが、それぞれ置かれた状況の中では、ひたむきに挑戦する。やはり経験させることが大切だと思う。

「あいさつができる子」、それが調和してみんなと仲良くできるのではないか。

一人ひとりがそれぞれの年代でいろいろなことを学び、個性が培われていくと思う。その個性を伸ばし、生かしていくことが大事で、それが高校、社会へとつながっていくのではないかと思う。

最近、常識では考えられないような青少年を含む事件が起きているが、おそらくインターネットやパソコンなどに熱中して、人と人とのつながりが薄れてきている中で、問題が起きているのではないかと感じる。子どもたちには、人と人とが接していくなかで、いろいろなことを学んでほしいので、限られた環境よりは、小さい時から、いろいろな人と接する環境にあった方がいいと思う。

人と人とのスキル、距離感をつかむ「社会力」を学校・地域の中で身につけることが大切だと思う。

最近の子どもは、コミュニケーション能力が欠けている。顔の表情を見ながら会話することを学校生活の中で身につけてほしい。

両校保護者アンケートによるご意見 ~ 統合については総論賛成 ~

前回の検討委員会後、両校PTAが保護者に対しアンケートを行い、これまでの検討委員会の議論を踏まえ、再編に関する意見・要望を募りました。自由提出のため、両校合わせて16件のご意見でしたが、統合については総論賛成という内容が多いようです。

なお、16件すべてを掲載しておりますが、紙面の制約上、すべての内容を掲載しておりませんのでご了承ください。

統合には賛成です。子どもの数が増えることで、いろいろな考え方を知ることができ、行事をする時も楽しいと思います。

両校とも人数が少ないので、できるだけ早く再編してあげてほしいです。

賛成です。もちろん少人数のメリットもありますが競争心を養う上でも統合してほしいと思います。

子どもたちが、より大勢の子どもたちと揉まれながら成長していくことは大変重要だと思います。

統合については、もっと早く実施していただきたかったと思います。中学校、高校、大学、社会と大きな団体に移って行く中で、少人数のいつも同じ友人としか遊んでいなかった子どもは、順応性に乏しいように思われます。大勢の中で「認め合い、分かち合える環境」を子どもたちに与えてあげてほしいと思います。

氷取沢小の方が人数が少ないので、上中里小に吸収されるような気がして不安です。

統合により吸収されるのではないかと不安について、再編統合は両校をいったん廃止して新しい学校を創るという考え方です。(事務局補足)

当初、統合については反対でしたが、1学年5人という年がくることが分かり「このままではいけない」と思いました。統合には反対ではなくなりましたが、校舎をどちらにするかという問題に関して、通学距離の問題もあると思いますが、校舎の耐震性を一番に選んでほしいと強く願います。

行政や大人の都合で統廃合せず、数十年先を見て、子どものことを考えた方がよい。急がず諸問題を解決してから実施すること。

どちらの校舎を使うのか、何年後に統合するのか気になっています。

統合後の校舎は、どうなるのでしょうか。仮に上中里小に通うことになった場合、低学年には通学の距離が遠すぎるように思います。氷取沢小は災害時の避難場所で、備蓄庫などもありますので、それもどうするのか考えていただきたいと思います。

統合後の子どもたちのケアを十分に行っていただきたい。そのためには、統合時に先生の顔ぶれがあまり変わらないようにしていただけたらと思います。通学路も一本道ではありますが、道のりが長くなるので不安に思います。

中学校の学区については、よく検討していただきたい。

中学校は、浜中、富岡中のどちらかを選べるようにしてほしい。統合するのだから、その前に子どもたちだけではなく、保護者も、そして行事もだんだん一緒にしたらどうか。

両校の良いところ（特色ある行事等）を少しずつでも構わないので残してほしい。

人数が増えても1クラスの人数は、今までのように少人数でクラスだけを増やしてほしい。

学級編制基準は、国の法律で現在40人と決められており、それが教員の人件費に結びついているので、簡単に増やすことはできません。例えば1学年1学級で40人の場合、教員は1人しか配置されませんが、統合して20人と合わされば60人になり、30人の2学級で2人の教員が配置されます。したがって、学年によって増える学年もあれば減る学年もある可能性があります。上中里小と氷取沢小が統合した場合でも、おおむね32～33人が想定され、横浜市の平均値になっています。また、現在、クラス担任とは別に少人数指導の担当教員の加配があり、少人数指導を行っています。規模のスケールメリットを生かしつつ、少人数指導できめ細かい指導も行っているのが学級編制と教員配置の現状です。（事務局補足）

検討委員会に寄せられたご意見について

<意見>

（平成17年9月29日受信）

検討委員会ニュースを地域配布していただきありがとうございます。当初、非公開とのことで心配しておりました。是非、中間でも地域の人たちの自由参加の聴取会を1回でも計画してください。

再編統合に関する議論は、教育委員会から検討委員会に検討を委ねているという形なので、中間に聴取会を開催することは考えておりません。

なお、皆様のご意見については、地域、保護者等の代表である検討委員会の委員の方々を通じてお寄せいただくか、FAX、Eメールなどで事務局にお送りいただければ、今回のように検討委員会において報告・検討させていただきます。

次回検討委員会の日程

平成17年11月3日（木・祝）午後1時30分から両校施設を見学後、上中里小学校で開催予定

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会の経過や横浜市の基本方針等は
ホームページでもご覧いただけます。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会は、皆様からのご意見をいただきます。
EメールかFAXで事務局にお送りください。

なお、ご意見は、検討委員会のなかで報告・検討させていただいております。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会事務局

横浜市教育委員会事務局学校計画課 Eメール：ky-isogo@city.yokohama.jp

FAX：045-651-1417 電話：045-671-3252